

69 福岡県立山門高等学校 ～山門型ALを目指して～

教育方針

校訓： 至誠 信愛 創造

教師としての行動指針と3年間を見通した指導計画に則って、山門高校3つの約束（難関へのチャレンジを親身な指導で支える／楽しい行事／一人一人を大切に）を具現化するとともに、失敗を経験しながらもたくましく成長しようとするチャレンジ精神を持った生徒を育てる。そのために、学校を挙げて生徒の「リミッター」外しと学力向上、生徒主体の学校文化づくりに取り組む。

平成30年度教育重点目標

3年間を通してAL型授業を行う。

- 1) グランドデザインをはじめとした各種教育計画の具現化と3年間を見通した教科指導体制の確立を図る。
- 2) 生徒一人一人を大切に、すべての生徒の学力を伸ばす。
- 3) 主体的に自らの進路を切り拓こうとする生徒を育成する。
- 4) 在り方生き方を考えさせる機会、失敗を恐れずにチャレンジさせる機会を与え、自律心と企画力、たくましさを育む。

英語指導力向上事業

これまでの授業改善に向けた具体的な英語科の取り組み

イングリッシュキャンプ

平成28年 英語指導力向上事業→ICTを利用したAL型授業への取り組み

ダイアグラム法



テキストの本文の内容をダイアグラムでグループ毎に発表

ジグソー法ディベート



ジグソー法でグループワークで賛成・反対意見を構築



3年前より春季休業中に他校のALT4～5協力で学校で2日間実施。希望者30名程が参加



成果

模擬試験と英検の伸び

AL型授業の効果を実感

2017年準1級にも1人合格

英語のAL型授業を実践した期間の模擬試験の成績の著しい伸び（現3年生）

1年7月→1年11月	1年11月→2年7月	2年7月→2年11月	2年11月→2年1月
43.1	43.5	45.1	46.3
47.1	47.3		

*AL型授業を実践した時期に大きな偏差値の伸びが見られる。

本校の実用英語技能検定2級の最終合格者の推移（人）

2015		2016		2017		2018	
第2回	第3回	第2回	第3回	第1回	第2回	第3回	第1回
5	5	11	2	10	9	17	30

*AL型授業を実践した後に受験者と合格者の増大が見られる。

人材育成計画 学習指導・専門性向上

3年前より電子黒板の研修会を実施。授業での使用を促す。

- 1) 各教科持ち回りによる授業力向上のための断続研修・・・・・・管理職及び指導教諭が授業力向上のための指導・助言を行う。
- 2) シラバス審査・・・・・・管理職及び教務主幹、指導教諭による審査を受ける。
- 3) 授業アンケートと他者の授業参観の連動・・・・1回目の授業アンケートで課題発見 → 他者の授業参観を参考に授業改善 → 2回目のアンケートで検証
- 4) 学習指導案審査・・・・・・少なくとも1回 / 年は、学習指導案を提出し、管理職または指導教諭の審査を受ける。
- 5) 「新たな学び」への対応・・・・・・基本研該当事者が、当該の基本研で「新たな学び」についての理解を深め、授業で反映させる。

AL型授業の実践例

電子黒板のみならず、iPadやプロジェクターでICT化を図る。

数学科 武本拓也教諭

単元名： 1年数学A
第2章図形の性質 第1節 平面図形
手立て： 生徒との対話により**主体的な学び**を促す。
また説明にICTを用いることで説明の時間を短縮し、生徒の問題を解く時間を確保し、**グループ対話**で主体的に学ぶ姿勢を促す。
学習活動：電子黒板を用いた説明を最初にあえて15分のみ行う。個人で演習問題に取組んだ後、グループで解く。最後に**リフレクションシート**で振り返る。

地歴/公民科 東龍太郎教諭

単元名：1年現代社会
現代の経済社会と国民生活
手立て： 中小企業の現状と課題について**電子黒板**を持ち、取り組みについて**グループワーク**を通して議論させ、さらに生徒たちの将来像について協議させる。
学習活動：教科書やスライド資料を見ながら、グループで話し合う。また授業のまとめとして**ペアワーク**で復習を行う。

国語科 本園明宏教諭

単元名： 3年古典B
評論I「無名抄」「おもて歌のこと」
手立て： ワークシートを用いた**ジグソー法**による対話的活動により、和歌の解釈を深めさせる。
学習活動：4人の班を9つ作り、**グループワーク**を行う。まず**エキスパート活動**でワークシートの内容を話し合った後に**ジグソー活動**を行い発表する。最後に教師が補足説明する。

今後の課題

山門の生徒の主体的、対話的で深い学びにつながる山門型ALを目指す。

- 1 活動ありきで、思考が深まらないような授業にしないようにすること。
- 2 各教科におけるルーブリックを作成すること。
- 3 教科横断的な視点をどのように養うかということ。